



六人部 昭 典 教授

六人部昭典先生 履歴

学歴 一九七一年 京都教育大学附属高等学校 卒業

一九七七年 大阪大学人間科学部 卒業

一九八二年 大阪大学文学部美学科 卒業

一九八五年 大阪大学大学院文学研究科 芸術学専攻博士前期課程 修了

一九八七年 同 博士後期課程 単位取得退学

職歴 一九七七年 向日神社禰宜（二〇〇七年まで）

一九八七年 京都芸術短期大学 専任講師

一九九一年 大手前女子大学文学部 専任講師

一九九四年 同 助教授

（二〇〇〇年に大手前大学人文科学部に改組・改称）

二〇〇二年 大手前大学人文科学部 教授

二〇〇六年 実践女子大学文学部美学美術史学科 教授

非常勤講師 大阪大学 神戸大学 東京大学 島根大学 福岡教育大学 鳴門教育大学 大阪市立大学 同志社大学 立命館大学 京都橘

大学 京都造形芸術大学 帝塚山学院大学 近畿大学 関西学院大学 西南学院大学 成城大学

学会 美術史学会委員（例会・編集担当 一九九五―二〇〇六年） 民族藝術学会理事（二〇〇八―二〇二二年）

社会活動 兵庫県展審査委員 稲盛財団「京都賞」推薦委員

六人部昭典先生 業績一覽

著書（単著）

『モネー《睡蓮》への歩み』 二〇〇一年 六耀社

『もっと知りたい ゴーガン 生涯と作品』 東京美術 二〇〇九年

著書（共著・分担執筆）

『西洋の美術』 神林恒道（他）編 昭和堂 一九八九年

分担執筆 「絵画における近代」

『美のパスぺクティヴ』 辻成史編 鹿島出版会 一九八九年

分担執筆 「一八九〇年代のモネの連作」

『モネの睡蓮』 共著 光琳社出版 一九九〇年

分担 「モネの睡蓮」「年譜」

『マネ／モネ』 学習研究社 一九九二年

分担執筆 「マネとモネ 絵画の新時代」

『屋外へ出たカンヴァス』 太田泰人（他）編 講談社 一九九二年

分担執筆 「モネ《積みわら》連作」

『世界美術大全集 第二二巻 印象派時代』 池上忠治監修 小学館 一九九三年

分担執筆 「モネ」（画家論）「作品解説」（三五点）

『美術史のスペクトラム』 若山映子（他）編 光琳社出版 一九九六年

分担執筆 「モネの《睡蓮》と水をめぐる小論」

『芸術の楽しみ』 神林恒道（他）編 晃洋書房 一九九六年

分担執筆 「印象主義の絵画―モネの《睡蓮》をめぐる」

- 『西洋美術館』 関府寺司（他）編 小学館 一九九九年
- 分担執筆 「光の画家、モネ」「モネの《睡蓮》とジヴェルニー」など九件
- 『人文科学の諸相』 鈴木亨（他）編 大手前大学
- 分担執筆 「マティスとボードレール―《豪奢、静寂、逸楽》を中心に―」
- 『クロード・モネ』（展覧会カタログ）山口県立美術館 二〇〇一年
- 分担執筆 「モネの絵画と自然」「作品解説」（九点）
- 『印象派とその時代』（展覧会カタログ） 埼玉県立近代美術館 二〇〇二年
- 分担執筆 「印象派のプレネーリスム―ゾラ『作品』中の《外光》を手がかりに―」
- 『視覚芸術の比較文化』 武田恒夫（他）編 思文閣出版 二〇〇四年
- 分担執筆 「ゴーガン作《デ・ハーンの肖像》に描かれた書物―『失樂園』と『衣服哲学』―」
- 『モネ―光の賛歌』（展覧会カタログ） 奈良県立美術館 二〇〇四年
- 分担執筆 「クロード・モネ 光の画家／水の画家」
- 『田園賛歌 近代絵画に見る自然と人間』（展覧会カタログ） 二〇〇七年 埼玉県立近代美術館
- 分担執筆 「収穫の主題―モネ、ゴーガン、ファン・ゴッホ―」
- 『別冊太陽 モネ』 平凡社 二〇〇七年
- 分担執筆 「モネの芸術」
- 『画家別 印象派絵画の見かた』 島田紀夫編 東京美術 二〇〇七年
- 分担執筆 「日本美術への関心の高まり」「印象派」と関連した文学と音楽」など三件
- 『フランス近代美術史の現在』 永井隆則編 三元社 二〇〇七年
- 分担執筆 「モネ《積みわら》連作の再考」
- 『絵画の制作学』 藤枝晃雄（他）編 日本文教出版 二〇〇七年
- 分担執筆 「クロード・モネ―「感覚」を描く―」
- 『別冊太陽 ルノワール』 平凡社 二〇〇八年
- 分担執筆 「ルノワールの芸術」
- 『ワシントン・ナショナル・ギャラリー展』（展覧会カタログ） 京都市美術館（他） 二〇一一年
- 分担執筆 「幸福の場所、あるいはユートピアの在りか」

- 『ゴッホの夢』美術館―ポスト印象派の時代と日本』 関府寺司編 小学館 二〇一三年
 分担執筆 「幸福」というユートピア」 「画家たちの南仏」
 『明治初期洋画家の留学とフランスのジャポニスム』 小林宣之編 水声社 二〇一九年
 分担執筆 「モネとジャポニスム」
 『モネとマティス もうひとつの楽園』（展覧会カタログ） ポーラ美術館 二〇二〇年
 分担執筆 「クロード・モネ―花の庭、水の庭―」

論文

- 「モネ書簡（一八九〇年）における『瞬間性』と『積藁』連作」
 『美術史』第一一九号 一九八六年
 「ブラックのキュビズム」
 『瓜生（京都芸術短期大学紀要）』第一〇号 一九八七年
 「一八九〇年代のモネの連作と光―モティーフと構図の検討をとおして」
 『美術史』第一三三号 一九九三年
 「一九世紀半ばのフランス絵画における風景表現」
 『大手前女子大学論集』第二八号 一九九四年
 「モネの印象主義絵画と『瞬間』」
 『科学研究「芸術的時間の構造」研究成果報告書』 一九九六年
 「印象主義形成におけるモネの絵画の筆触」
 『鹿島美術研究 年報』第一三三号別冊 一九九六年
 「モネとモーパッサン」
 『大手前女子大学論集』第三〇号 一九九七年
 「ナビ派の絵画における「家族」の主題―二人のマルト―」
 『大手前女子大学論集』第三一号 一九九八年
 「ラファエル・コラン―寓意と外光表現」
 『美術フォーラム21』第二号 二〇〇〇年

- 「モネとゾラ」
- 『大手前大学人文科学部論集』第二号 二〇〇二年
- 「筆触の思想」
- 『美学』第二〇九号 二〇〇二年
- 「印象主義と批評―ゾラ、デュレ、マラルメ」
- 『美術フォーラム21』第七号 二〇〇二年
- 「高村光太郎『印象主義の思想と藝術』に関する一考察」
- 『大手前大学人文科学部論集』第三号 二〇〇三年
- 「高村光太郎の「自然」
- 『科学研究―日本における「芸術」概念の誕生と死』研究成果報告書 二〇〇三年
- 「高村光太郎の言説における「生」」
- 『大手前大学人文科学部論集』第四号 二〇〇四年
- 「モネ《カピュシーヌ大通り》―「現在」を描く／描くことの「現在」―」
- 『大手前大学人文科学部論集』第五号 二〇〇五年
- 「神戸市の野外彫刻の総合的研究」 共著
- 『大手前大学史学研究所紀要』第六号 二〇〇六年
- 「モネとブルースト」
- 『実践女子大学 美術美術史學』第二四号 二〇一〇年
- 「『感覚』の位置―モネとセザンヌ―」
- 『実践女子大学 美術美術史學』第二五号 二〇一一年
- 「『印象』と筆触」
- 『実践女子大学 美術美術史學』第二六号 二〇一二年
- 「モネの《サン＝ラザール駅》作品群」
- 『実践女子大学 美術美術史學』第二七号 二〇一三年
- 「ルドンのオフィーリア作品」
- 『実践女子大学文学部 紀要』第五五集 二〇一三年

「モネの絵画と時間」

『実践女子大学 美術美術史學』第三〇号 二〇一六年

「ボードレールと絵画―肖像画、美術批評、韻文詩―」

『実践女子大学文学部 紀要』第五八集 二〇一六年

「モネと庭づくり」

『実践女子大学 美術美術史學』第三三号 二〇一九年

「ヴラマンク―色彩、そして道―」

『実践女子大学文学部 紀要』第六一集 二〇一九年

「晩年のモネ―《ロンドン》連作と《ヴェネツィア》連作―」

『実践女子大学 美術美術史學』第三四号 二〇二〇年

「吉野石膏コレクション―印象主義を定義する―」

『実践女子大学文学部 紀要』第六二集 二〇二〇年

「《ル・プティ・ジュヌヴィリエ》にて、日の入り》（一八七四年）の意義」

『國富奎三コレクション論考集』姫路市立美術館 二〇二〇年

「モネとマティス―花を手がかりに―」

『実践女子大学文学部 紀要』第六五集 二〇二三年

「一八六〇年代のモネ」

『実践女子大学 美術美術史學』第三七号 二〇二三年

他の著作

「ブラック」『ザ・カルチュア・バンク』PHP研究所 一九八三年

「薄明の音を聞く人」『泉茂絵画展』（展覧会カタログ）一九八七年

「関西の現代美術」〔色斑の音〕「視覚の欲望」など九件 『Art & Critique』京都芸術短期大学 一九九〇―一九九三年

「京都の画家たち」〔腐食／時間―森本玄の作品〕「水景―山河全の作品」など五件 『Quarterly Report』京都芸術短期大学 一九九六年

『芸術新潮 特集・クロード・モネ』第四三卷一―二号 新潮社 一九九二年

分担執筆 「モネの歩み」「モネの〈眼〉を解く鍵」

- 「ゴーギャンと野性」『毎日新聞』一九九二年
- 「ニコルソンのマグカップ」『国立国際美術館 月報』第四号 一九九三年
- 「モネ 日常の情景から無限の空間導く」『朝日新聞』一九九三年
- 「ネガ・グラフィイー 褐色の闇の中から」『ジャック・ペルノ展』(展覧会カタログ) 岐阜県美術館 一九九四年
- 「クロード・モネ 《睡蓮》」『パリで出会う名画50』高階秀嗣編 小学館 一九九六年
- 「クロード・モネ 《ベリール島の岩》」『毎日新聞』一九九七年
- 「潮流」『ズーム・イン・アート』連載 (高松次郎の「影の絵画」「震災と美術」など一三件) 『毎日新聞』一九九八年―二〇〇〇年
- 「ブラックの絵画」『中日新聞』一九九八年
- 「見るものをつつむ水の広がり」『中日新聞』二〇〇二年
- 「クローズアップで観るモネ、ルノワール、ゴッホ、スーラ」監修・文学研パブリッシング 二〇一三年
- 『花美術館 特集：ポール・ゴーガン』第五五号 蒼海出版 二〇一七年
- 分担執筆 「「異国」を生きた画家 ポール・ゴーガン」
- 「水の幻想十選」連載 (「ミレイ《オフイリア》」「モンドリアン《海》」など一〇件) 日本経済新聞 二〇一八年
- 翻訳
- 「モネの言葉」『モネと仲間たち』(展覧会カタログ) 茨木県立近代美術館 一九八八年
- 「ファン・ゴッホの残像―芸術家たちの証言」『ユリイカ』第二二卷第一三号 青土社 一九九〇年
- 『モネ』レイチェル・バーンス編 日本経済新聞社 一九九一年
- 「ファン・ゴッホ神話」関府寺司監修 テレビ朝日出版部 一九九二年
- 分担 シラール・ファン・ヒューフテン「小説の主人公としてのファン・ゴッホ」
- ヤン・フルスカ「歪められたファン・ゴッホ像」
- 「ドミエ版画中のレジャンド」『オノレ・ドミエ展』(展覧会カタログ) 北海道立帯広美術館 一九九三年
- 『The Visual Art of Jean Cocteau』ウイリアム・エンボードン 光琳社出版 一九九四年
- 「二〇世紀美術におけるプリティヴィズム」ウイリアム・ルービン編 吉田憲司(他)監修 淡交社 一九九五年
- 分担 カーク・ヴァードナー「ゴーガン」
- 『印象派の絵画』マーク・パウエル・ジョーンズ 西村書店 二〇〇一年

『モネの庭』（監修・共訳） ヴィヴィアン・ラッセル 西村書店 二〇〇五年

学会発表

「モネ書簡（一八九〇年）における『瞬間性』と『積藁』連作」

美術史学会 第三八回全国大会 一九八五年

「一八九〇年代のモネの連作のモチーフと構図」

美術史学会 西支部例会 一九九二年

「一八六〇年代の風景表現―印象主義の形成」

日仏美術学会例会 一九九四年

「マティス《豪奢、静寂、逸楽》―色彩の官能性を求めて」

日仏美術学会例会 二〇〇〇年

「筆触の思想」

美学会 西支部研究例会 二〇〇一年

「ゴッガン作《デ・ハーンの肖像》に描かれた書物―『失樂園』と『衣服哲学』」

日本比較文学会 関西支部研究例会 二〇〇三年

「モネ、ミルボー、そしてプルースト」

日仏美術学会・プルースト研究会シンポジウム 二〇〇六年

「一九世紀フランス絵画に見る収穫の主題」

美術史学会東支部大会シンポジウム 二〇〇七年

「モネの筆触」

特別展「モネ」関連シンポジウム 国立新美術館 日仏美術学会 二〇〇七年

「『感覚』の位置―モネとセザンヌ―」

特別展「ポスト印象派とその時代」関連シンポジウム 国立新美術館 日仏美術学会 二〇一〇年